



# 全教北九州

新聞 全教北九州

全教北九州市教職員組合

発行責任者 中川喜久子

2019.6.28

ホームページ： 検索 全教北九州

この新聞はすべての教職員に配布しています



教え子を再び戦場に送るな！憲法改悪を許さず、憲法を守り、いかそう

## 全教北九州の「未来をひらく」組織拡大運動の飛躍を！

5月18日（土）第12回定期大会を開催し、19年度の運動の方針等を全会一致で採択しました。討論では、教育条件整備が進まない教育現場の実態、学力テスト体制や教育の民間委託等によって、子ども達の成長や発達のための教育ではなくなってきたという実態が語られました。しかし、そのような状況の中でも頑張っている仲間の姿に、「集いあうこと」「学び合うこと」「語り合うこと」の大きさを感じた大会となりました。発言の一部を紹介します。

▼学年当初、学級編成で混乱したが、2年生が3クラスとなり、1学級が39人から26人となった。

▼日頃からの学習と他校や組合との情報交換の大切さを実感した。（小）

▼3月末に突然、4月からの一部

教科担任制が発表され現場が混乱した。空き時間はできて、児童理解への不安が大きい。体育の授業だけを担任のクラスは、担任も子どもや保護者も不安なものではないだろうか。もっと現場の議論が必要。（小）

▼特別支援学校で児童生徒数が増え教室が足りない。設置基準がないことによる。数年後に建替えるので、増築もしないとのこと。でも「今」の子ども達の成長発達にとっては大きなマイナスになる人が足りず養護助

教諭が担任として位置づけられている。（特支）

▼学力テストのスピーキングテストは必須ではなかったのに北九州市は実施した。PCの台数が限られているため、入れ替わりの際テスト内容が漏れないように時間や人員も割いたわりに、教室内では解答している声が駄々洩れなので、友達の間で聞いて自分が解答することもできて意味のないテストだと感じた。（中）

▼スピーキングテストは3年職員と英語科教員への負担が大きかった。（中）

▼教員採用試験対策講座「鷹の爪」で講師の先生や学生とのつながりを広げてきた。昨年は、参加者から「模擬授業」の講座も受けたいという希望が出たので急遽取り組んだ。今年は参加者の要望を聞きながら進めている。青年部では気軽に取り組めるレクリエーションとして、ボーリングやレクを行っている。山口高教組との合同レクにも発展した。まずはレクから、つながりを広げたい。（青年部）

▼組合に入ってから、20人くらいの人に組合の良さを話している。レクは楽しかったので、組合って垣根が高そうと感じている人にも声かけをして仲間を増やしていきたい。（青年部）

▼昨年「全国女性教職員学習交流集会」を北九州市で開催。実行委員も56人組織でき、パワフルな集会を成功させることができた。先日講演会で「私（教師）が学校を離れていくのではなく、教育が私（教師）から去っていった。」という話を聞き、教師の専門性や自主性が奪われていく現場が、つらくなり退職した仲間の姿が浮かんだ。「あつまる、つながる、仲間がいる」が集会のテーマだったが、諸事情で集まれない心は繋がるようにしたい。業務改善が進んでも、職場で話し合うことが減ることはない。（女性部）

▼職場で共済の良さを伝え、総合共済や火災共済を増やしてきた。共済も組合も「助け合う」という点が共通職場でしっかり声掛けをしたい。（共済）

▼教員は、重大事故を起こし起訴される時、教員免許は失効、退職金無支給、年金にもひびくこととなる。被害者救済を第一義にし、加害者となった教員の身分も守っていくのが全教自動車保険。この保険の良さを伝えて広げていこう。（自動車保険）

# 人事委員会に要請書提出

5月17日(金)



5月17日(金)北九州市人事委員会に「北九州市教職員の賃金・労働条件等の改善を求める要請書」を提出しました。

2017年、2018年と市職への権限移譲による待遇の悪化を県職当時の待遇に回復・改善させる要望、長時間過密労働の改善の解決を求める要望書を人事委員会に提出し、会見を行ってきました。その成果もあり、長時間勤務は正の勧告や一部賃金の改善などを勝ちとることができました。

本年度の要請書では、労働実態と賃金が見合っていない状況を是正するために、労働実態に応じた賃金改善を勧告するよう求めています。また、臨時教職員の処遇改善、病気と仕事の両立支援等についても求めています。

今後の人事委員会との話し合いの場で現状をしっかりと伝えます。

※要請書は組合ホームページでご覧いただけます。

「自衛官募集への協力」と 安倍首相の“改憲直結”発言の余波か？

## 北九州でも自衛官募集に便宜をはかる 18歳情報提供のためのシステム改修

5月31日、全教北九州ほか15団体で名簿提供への抗議と中止を要請

2019年2月の安倍首相の「残念ながら（自衛隊の）新規隊員募集に対して、都道府県の6割以上が協力を拒否しているという悲しい実態があります」その上で、この問題を解決するためには、「憲法にしっかりと自衛隊と明記して違憲論争に終止符を打とう」との発言は記憶に新しいところです。北九州市でも自衛官募集に便宜が図られようとしています。

5月31日全教北九州など15団体は、この「抽出名簿提出に抗議し名簿提出中止」の要請行動を行いました。改修については、「それまでの全住民基本台帳を閲覧してその中から自衛官が必要な名簿を書き写すやり方から、改修システムによる氏名、性別、生年月日、住所の4項目で抽出できるようにした」「今回、自衛隊からは『18歳、男子』という要請があったので、該当者のみ閲覧できるようにした」ということです。

今回のシステム改修は、憲法改正のハードルを低くするきっかけにもなりかねない自衛隊への便宜供与です。このような改修には、教職員の組合として強く反対します。



賛同者1万5千人までもう少し

「せんせい ふやそう」キャンペーン

ネット署名にご協力ください

「朝から放課後までずっと職員室に降りずに教室にいるんです。それでも子どもの話を聞く時間ないんです。」という青年教員。多忙が、本来の私たちの仕事を困難にさせています。多忙を改善し、子どもとふれ合う時間を増やすために、教職員を増やしてほしいというのは、教職員や保護者の共通した願いです。

私たちの願いを国にとどけよう

全日本教職員組合(全教)では、教職員を増やしてほしいという願いを国に届けるためのネット署名「せんせい ふやそう」に取り組んでいます。教育にもっとも身近な私たち教職員の切実な声をこのネット署名で国に届けましょう

ネット署名は簡単

ネットで「せんせいふやそう」で検索すると署名のページつながります。必要事項を入力後、「今すぐ賛同」をクリックで終わりです。キャンペーン広告への支援はあくまで任意ですので「賛同」のための必須の手続きではありません。

全教北九州でも、教職員や保護者、市民のみなさんに署名への協力をお願いしています。



☆ せんせい ふやそうキャンペーン

スマホのバーコードリーダーをかざすと署名の画面につながります。



ネット署名に  
change.org  
ご賛同を!

せんせい ふやそう 検索